

# 実践記録

## 112

### シリーズ

## アートキャンプ in 胎内 2006

胎内市教育委員会 生涯学習課 文化・文化財係主任 伊東 崇

### はじめに

子どもは、家庭、地域、学校環境の中で成長していきます、親はその成長の姿を微笑ましく見守っていきますが、その成長過程において「考える力」「感性の広がり」を身につける機会や、異文化の人たちと出会い、国際理解をしていくことは大切なことといえます。

そんなことから、子どもたちにとって新たな自分を発見し、全ての体験を通して、「考える力」「感性の広がり」「国際理解」を身に付けてもらえればと思いこのアートキャンプを実施しました。



### 事業の内容

アートキャンプでは、縄文野焼きの土器作りから始まり、海辺や山間に存在する普段見過ごしている流木・漂流物や岩石・木などの自然の素材を自らの手と感性で、絵画やオブジェなどの作品を創作しました。

胎内市教育委員会が主催となって実施し、参加者25名(小5～中2胎内市7名、新潟市15名、阿賀野市1名、村上市1名、米国1名)で、平成18年7月28(金)～8月3日(木)までの7日間、胎内平キャンプ場をベースキャンプに、市内の海岸～山間周辺で活動を行いました。

体験指導には、郷土出身(旧黒川村)のアーティストで、現在アメリカ ロサンゼルスで活動している大平實氏をリーダーに、マイケル・マクミラン(インスタレーション)、マイク・ジョンソン(彫刻、立体)、フィリップ・リンハレス(絵画など)、ラウール・バルタザール(壁画)、ケン・タカハシ(陶芸)、いずれもアメリカ在住のアーティスト各氏を迎え、市の教育関係者、市民ボランティア、方々の協力を仰ぎました。

また胎内市には自然や動植物などを観察体験できる施設や、地域の歴史文化を体験できる施設が多くあり、その中で、胎内彫刻美術館、黒川郷土文化伝習館、胎内自然天文館、胎内昆虫の家の協力で体験を実施しました。

### 成果について

今回が初めての実施で、プログラムも盛り沢山の観がありました。先ずは、参加者全員が無事に全スケジュールを完遂したことは、成功と捉えて十分なことです。

予想を上回る参加者本人の体力、精神力もさることながら、全行程にわたるアーティストをはじめとする関係者の細やかな気配り、手配りにより、参加者が潜在的に持っている力を予想以上に引き出すことができ、アーティストと子ども達双方が対等な主役に成り



得たと思います。アーティストとのコミュニケーションが日毎に親密になり、各自の創作イメージの膨らみにつながったといえます。アーティスト達との生きた英語によるコミュニケーションもできました。

カヌー体験などでは、準備、始末などの助け合い作業で連帯感が強まり、想定以上の良い結果をもたらしたといえます。スローフードも楽しみながら行われ、自主的な活動となり、食育を無意識に感じていたように思えます。



### 課題

市内の子どもたちの参加が少ない点は、募集方法、内容などを煮詰める必要があると思います。地域の子どもの視線で、内容を検討していく必要があると思います。

作品を作るところを子ども達に見せるところからも、子ども達が大いに学ぶところがあり、アートキャンプの大きな意味でもありましたが、アーティスト自身の自作のための時間が少なかったように思います。このアートキャンプは、ある意味においては、充実したプログラムではありますが、もう一方では、無駄が無さ過ぎた観があります。一見、無駄と思われる時間であっても、モノを創造する上においては、重要かつ必要な考える時間といえます。

この構想に関しては、また、別のステージで考察を深めて実施することが肝要と思われます。

**竹細工による食器づくり:** 下越スポーツハウス小体育館青竹で、キャンプ中各自が食器として使う皿、コップ、箸などを作る。

**アートキャンプ参加者:** 彫刻美術館

**縄文土器 土偶づくり:** 市内の粘土と山砂を練り合わせ、土器 土偶の野焼き。

**奥胎内 自然散策:** 奥胎内胎内川河原を自然散策、流木、石片、木の葉などのオブジェの素材を収集。

**カヌー体験:** 前後の準備、片付けの共同作業は連帯感を強くする。

**グループ共同制作モニュメント制作:** 彫刻美術館周辺